

3, マツ科の巨木 Pinaceae

■マツ科の巨木は以下に分類する。

マツ属

- A クロマツの巨木
 - a 枯れたのクロマツの巨木
 - b 現役クロマツの巨木
- B アカマツの巨木
 - a 枯れたアカマツの巨木
 - b 現役アカマツの巨木
- C 仕立て松の巨木
- D 根上り松の巨木
- E ウツクシマツの巨木
- F リュウキュウマツの巨木
- G ゴヨウマツの巨木(キタゴヨウマツを含む)
 - a 天然ゴヨウマツの巨木
 - b 育てられたゴヨウマツの巨木
 - b-1 天然樹形のゴヨウマツの巨木
 - b-1 仕立てゴヨウマツの巨木

カラマツ属

- H カラマツの巨木

ツガ属

- I ツガの巨木

モミ属

- J モミの巨木

■マツ属の巨木の特異性

マツの巨木はかつて日本各地に存在した。ところが、松食い虫の被害によって、ほとんどの巨木が枯れてしまった。他の樹種で、たとえばブナやトチノキで巨木が枯れるという報告は度々されているが、主な巨木が全滅状態という樹種はマツ以外にないだろう。又、現役であっても、日本一のアカマツ・東法田の大アカマツも、分岐幹の二本は枯れている。倒木は時間の問題なのかも知れない。

本書では、このような状態でマツの正確な評価ができないので、枯れたマツの情報をできるだけ収集して、これらのマツと比較する事で、マツの巨木評価をしてみたい。驚くべきマツの巨木が実在した事実、筆者ならずとも驚愕するであろう。

情報収集に当たって、多くの方々にお世話になった。紙上を借りてお礼申し上げたい。又、Web 上で作者不明サイトから無断で拝借した画像が何点かある。紙上でお詫びしたい。

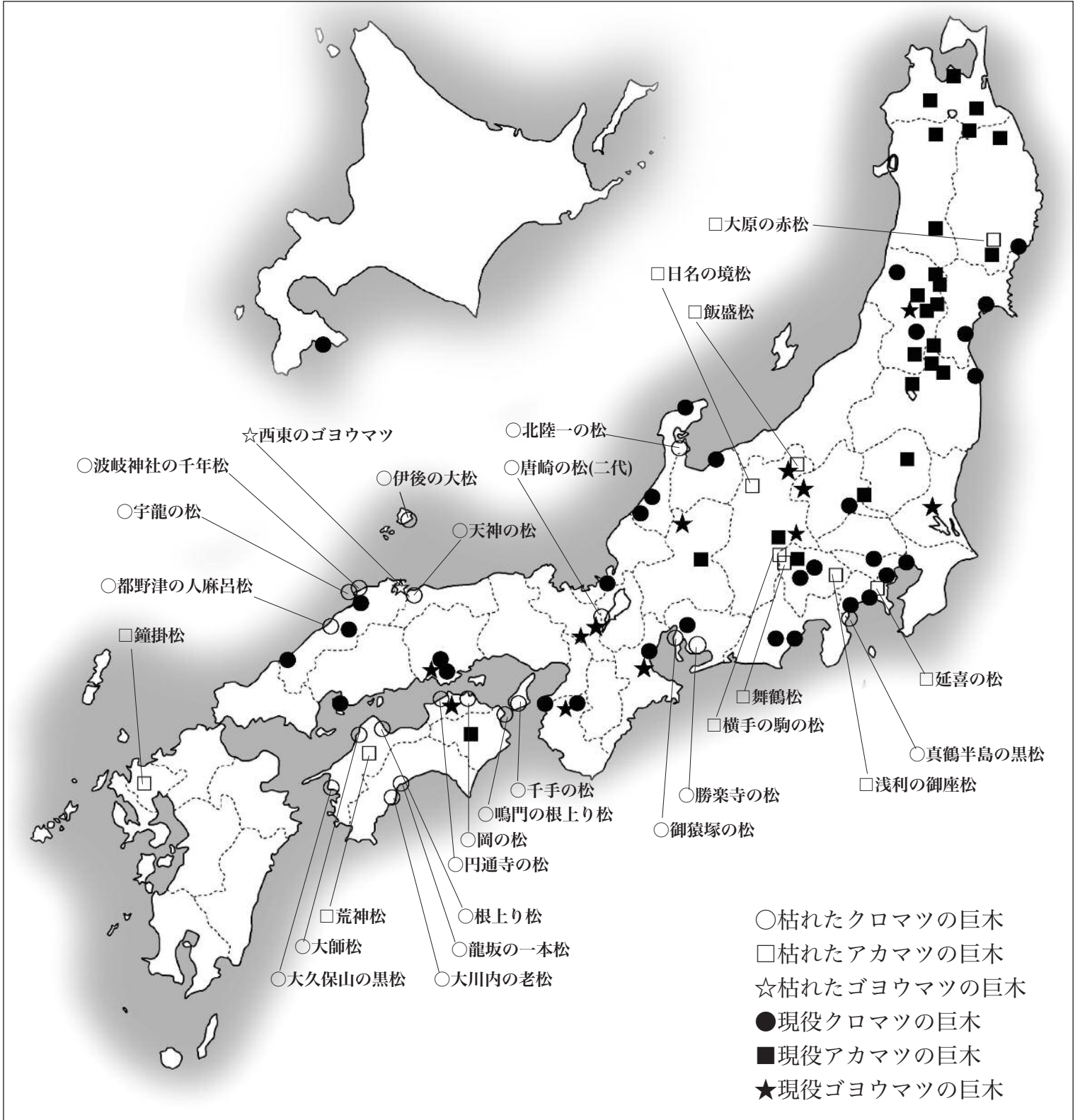
3-A クロマツの巨木(黒松) マツ科マツ属 Pinus thunbergii

- a 枯れたのクロマツの巨木
- b 現役クロマツの巨木

3-A-a 枯れたクロマツの巨木

枯れたクロマツの巨木のデータは、当時の記録の正確性に問題があり、評価は避ける。

■枯れたクロマツ・アカマツ・ゴヨウマツの巨木分布図



※考察・マツの巨木分布の南方である四国・中国地方から次第に枯死している事が判明する。

枯れたクロマツの巨木 名称	所在地	幹周等の記録
唐崎の松(二代) 写真 KM-001	滋賀県大津市唐崎 日吉大社	根周 9m、根元で 2 分岐、南北 86m、 東西 72m、樹冠周囲 260m。1920 年枯死。
根上り松 写真 KM-002	愛媛県今治市朝倉山口	根周 11.5m 株周 9.3m 樹高 30m 樹齢 400~500 年(伐採後調査) 根元で 2 分岐。1980 年伐採。
伊奈西波岐神社の千年松 写真 KM-003	島根県出雲市大社町 鷺浦伊奈西	幹周 6.05m(M6.87m) 樹高 35m 1996 年伐採、伐採後の調査では樹齢 275 年。
鳴門の根上り松 写真 KM-004	徳島県鳴門市鳴門町土 佐泊浦字大毛	根上り高さ 3m、最も長い根 5m。根の数約 20 本、樹高 20m 根の占有面積約 30㎡
北陸一の松(矢田の大松) 写真 KM-005	石川県鹿島郡矢田郷村 矢田	幹周 3 丈 6 尺、樹高 27 間 単幹松で、中程から分岐する樹形。
宇龍の松(弘法の松) 写真 KM-006	島根県出雲市大社町 宇龍	幹周 11.93m(根周?) 幹周約 6m(切株調査) クロマツの一本松。
天神の松	島根県西伯郡五千石村 安養寺	幹周 3 丈 樹高 15 間 樹齢 500 年
<small>つ の づ び と ま ろ ま つ</small> 都野津の人磨松 写真 KM-007	島根県江津市 柿本人磨神社	幹周 5.4m 樹高 13m 東西 25m 南北 27m 1997 年伐採、切株の展示がある。
大久保山の黒松 写真 KM-008	愛媛県西伊予市三瓶町 朝立	根周 13m 幹周 8m(画像解析で一致) 地 2.75m で二分岐、分岐幹の幹周 5.25m と 3.85m、1972 年伐採。
大師松 写真 KM-009	愛媛県松山市北条難波 鎌大師堂	根周 6m 幹周 5m 樹高 25m の一本松 1995 年伐採
<small>せんじゅ</small> 千手の松 写真 KM-010	兵庫県南あわじ市 賀集	幹周 M6.6m(1.3m 2015) 樹高 18m 樹齢 350 年 1977 年枯死 切株が展示されている。
円通寺の松 写真 KM-011	香川県宇多津町田町北	幹周 7m(大幹の合計周) (推定幹周 M4m) 樹高 10m 枝張り南北 20m・東西 31m 推定樹齢 600 年 2002 年枯死。
岡の松 写真 KM-012	香川県志度町(さぬき市) 真覚寺	幹周 8m(1.7m で 3 分岐・分岐幹周各 1.5m) 東西 34m 南北 40m、樹齢 500 年以上 現役時は日本一見事な松として知られていた。
<small>おさるづか</small> 御猿塚の松 写真 KM-013	愛知県知多郡岡田町 字久平	幹周 2 丈 9 尺 樹高 60 尺
勝楽寺の黒松 写真 KM-014	愛知県吉良町小山田	根周 7.8m 樹高 30m 2006 年伐採。樹齢 660 年
真鶴半島の黒松	神奈川県真鶴町真鶴	幹周 6.0m 樹高 38m 樹齢 300 年以上 2013 年中央より破損。
伊後の大松 写真 KM-015	島根県隠岐郡島後 伊後神社	幹周 5.3m 樹高約 22m 伝樹齢 500 年 2011 年伐採

写真 KM-001 史上最大のクロマツ ^{からさき} ^{まつ} 唐崎の松(二代)



▲唐崎の松(二代)全景・長崎大学付属図書館蔵

撮影されたのは明治期で最盛期の樹形だ。

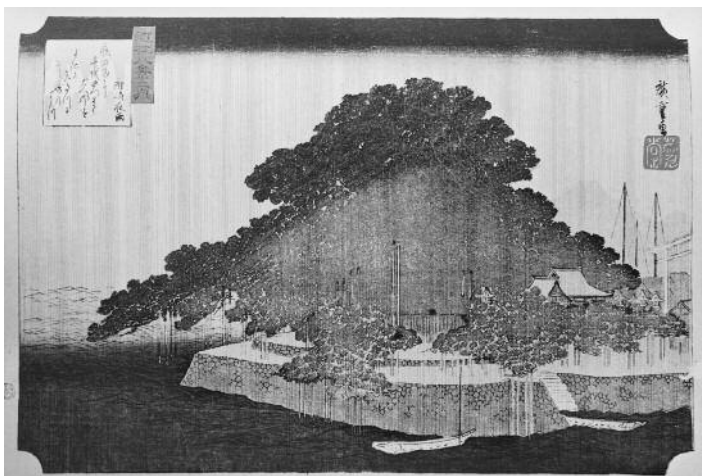
◀唐崎の松(二代)の根元・日吉大社蔵

幹周 9m(おそらく根周)、樹高 10m、南北 86m、東西 72m。樹冠の周囲 260m というとんでもない大きさであった。

唐崎の松の歴史は古く、初代は天正 9 年(1581 年)に台風で枯れ、この二代目は天正 19 年(1591 年)に植えられたという。二代目は大正 9 年(1920 年)に枯れ、現在あるのは三代目だ。

根元近くで 2 分岐し、右幹は上部で 2 分岐し、片方の幹は地面を這うように伸びる様子が伺える。

▼三代目の唐崎の松(写真・Web 画像)



◀近江八景の内・唐崎夜雨(歌川広重作)

描かれたのは 1830 年頃で、樹齢 240 年程。かなり誇張されて描かれたようだが、この浮世絵で一躍有名になり、訪れる人が溢れたという。(写真・Web 画像)

写真 KM-002 史上最大の分岐クロマツ ねあがりまつ 根上り松



▲北側よりの樹形。(1957年頃、越智脩撮影)

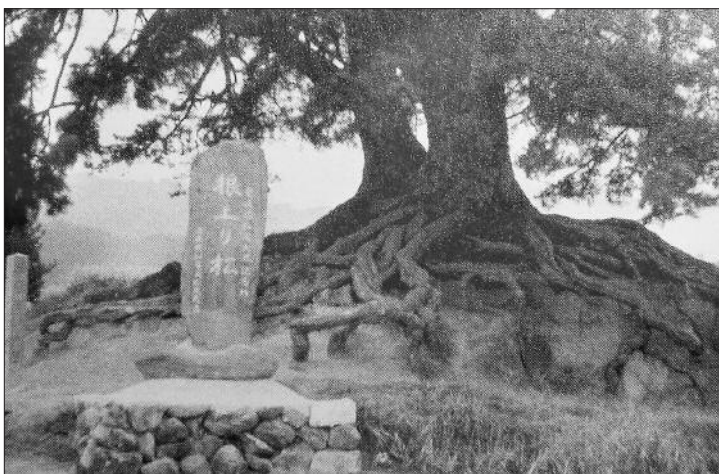
▲◀根上り松

地上近くで2分岐し、分岐部の株周が9.3m、樹高30m。西幹(◀の右幹)は幹周6mで4分岐し、東幹(◀の左幹)は幹周5m。伐採後の年輪調査から樹齢400~500年という。

手前9人の人物からもその巨大さが伝わってくる写真だ。見事と言う他はない。

枝張りは東西30m、南北41m、根張りは東西20m、南北18m。1980年6月25日伐採。

(写真・愛媛県立博物館「今はなき松たち」)



◀根元の見事な根張り。(1957年頃、越智脩撮影)



写真 KM-003

いなにしなみきじんじや せんねんまつ
伊奈西波岐神社の千年松

1996年伐採。伐採された切株から年輪調査をした結果、意外にも樹齢が275年と若かった。これ程巨大なマツならば、通常樹齢500~600年とされているだけに、生育場所によってマツの樹齢は大きく変化する事が判明した。

神社境内に天空を突き抜けるようにして立っていた。まことに残念である。

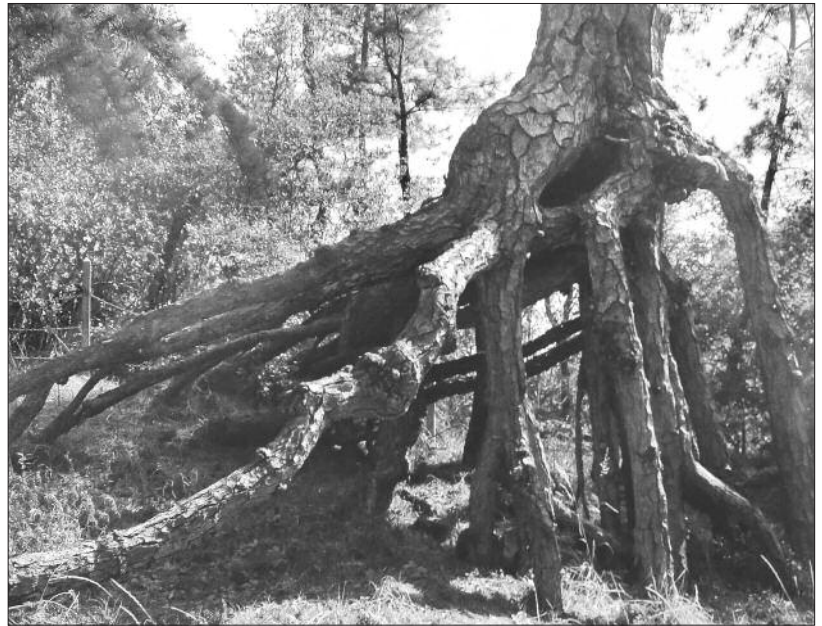
(写真・調査 秦広志)



写真 KM-005

ほくりくいち
北陸一の松(矢田の大松)

一本松で、途中から何本かの支幹が立上がっていた。(写真・大日本老樹名木誌)



▲写真 KM-004
なると ねあがりまつ
鳴門の根上り松

四国と淡路島を結ぶ大鳴門橋手前の鳴門北インター近くにあった。1924年(大正13)には8本あったが、次々と枯れていった。(写真・渡辺典博)



写真 KM-006

うりゅう まつ
宇龍の松(弘法の松)

1989年、伐採後10年程で切株調査をした秦広志によれば、山側から30°程で水平に伐採された伐採面直径は約1.9m。年輪から樹齢は400年を越えていた。

文献の幹周11.93mは根周で、M式の幹周は約6m程か。
(写真・大社町宇龍区提供)



写真 KM-008▶
おおくぼやま くろまつ
大久保山の黒松

地上2.75mで二分岐、分岐幹の各々の幹周は5.25m・3.85m。枝張りは南北35m、東西16m。調査の結果、アカマツとクロマツの癒着木。根元から分岐部にかけて空洞がある。根元で焚火をしていて類焼した。1972年枯死。
 (写真・「今はなき松たち」より。愛媛県立博物館発行)



▲写真 KM-007
つのづ ひとまるまつ
都野津の人磨松

1997年伐採。柿本人麻呂神社の傍らにあった雄大な大松。(写真・渡辺典博)



▼根元・人物と比較するとその大きさが伝わってくる。服装から見て1970年頃と思われる。
 (写真・Web画像)



▲写真 KM-010
せんじゅ
千手の松

掘り出された切株は、賀集の集会所横の空地に展示されている。幹周M6.6m(切口辺りの測定値) 乾燥し、樹皮が剥がれているので、実際は7m程の大松であった事が推測できる。

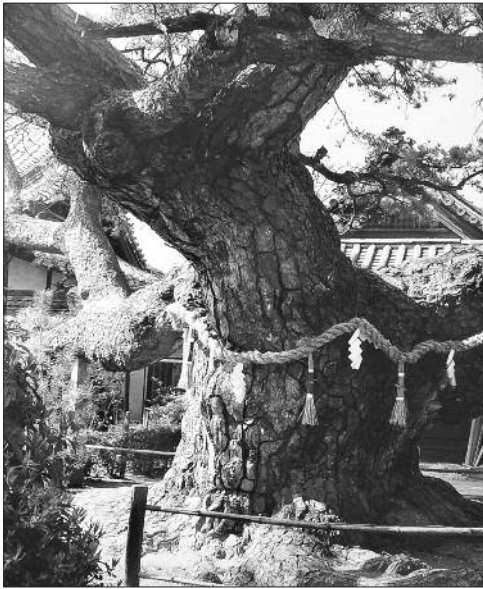
千手の松全景。▶
 1977年枯死し伐採。



▲写真 KM-009
だいしまつ
大師松

弘法大師伝説による「鎌大師堂」近くに立つ。1994年枯死。
 (写真・「今はなき松たち」愛媛県立博物館発行)





▲写真 KM-011

えんつうじ
円通寺の松

地上すぐに側幹が2本水平に伸び、大きく境内に広がる樹形であったが、2002年に枯死した。(写真・渡辺典博)



▲岡野松全景



▲写真 KM-012

おかのまつ
岡野松

現役時は日本一見事な松として知られていて、枯れるとその座は、「影向の松」に譲る事となった。分岐部分の切株が市役所のロビーに飾られている。

(写真・さぬき市役所)



▲写真 KM-013

おさるづか
御猿塚の松

高台に立ち、根上り樹形で根元が大きく広がり、安定感がある。3m付近で3分岐し、大きく枝葉を広げる様子が見える。毎年庚申祭りを行なって、猿の像をこの地に埋め、塚を築き、それを御猿塚と称した。塚に松を植えたものがこの松である。倒木年代不明。

(写真・愛知県史蹟名勝天然記念物調査報告第四巻より)

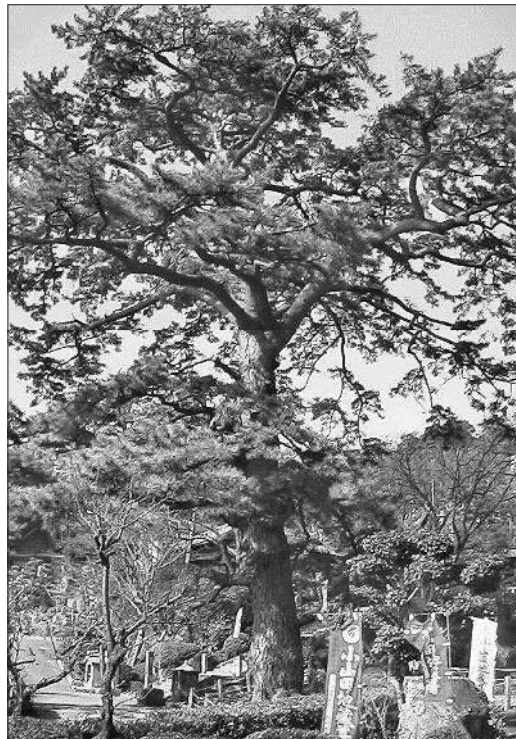
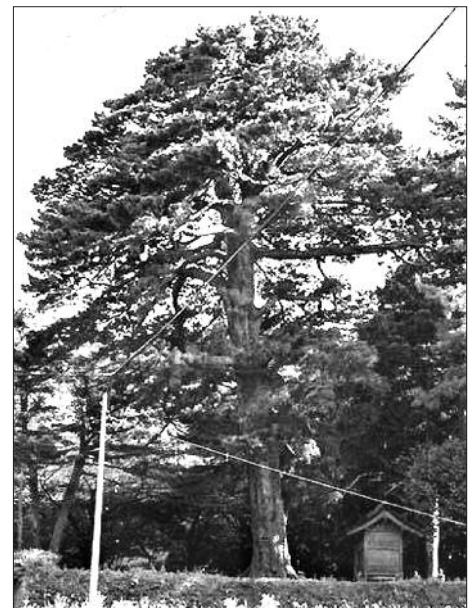


写真 KM-014▶

しょうらくじ
勝楽寺の黒松

(写真・Web 画像)



▲写真 KM-015

いご おおまつ
伊後の大松

上部分岐部の切株調査で年輪が200本、根元の推定年輪は250本程、千年松同様、意外に若い。(写真・秦広志)